



議員行政視察報告

令和2年2月4日(火)～6日(木)に、議員11名により、岡山県奈義町・西粟倉村・倉敷市真備町・児島地区の行政視察を実施しましたので、その概要を報告します。

参加議員 大館秀孝・寺嶋 正・齋藤 永・飯田 一・南雲まさ子・井上栄一
田代 実・平野由里子・内田 晃・古谷星工人・唐澤一代

子育て支援の町 奈義町

奈義町は、人口5千874人で、2014年の岡山県算出の合計特殊出生率が2.81と高く、脚光を浴びました。

2005年時点では1.41だった合計特殊出生率はなぜここまで高まったのか。そこには子育て支援策だけでなく、「町民」を核とした活動があったからです。

定住化に向けた住宅施策として、「新築住宅普及促進事業補助金」や、近隣価格より3割ほど家賃の低い若者向け住宅や定住促進住宅の整備などの移住支援策の強化を行ってきました。

独自性の高い子育て支援策としては、高等学校等就学支援として、生徒一人



「なぎチャイルドホーム」の説明を受ける

当たり年額9万円を在学中の3年間毎年度支給。高校生までの医療費無料化。出産祝い金、第1子は10万円、第5子以降は40万円支給等を行っています。

又、子どもと大人が世代を超え、出会い・ふれあい、互いに心を通わせ育ちあえる場所として子育て等支援施設「なぎチャイルドホーム」があります。ここには、誰でもいつでも、これる場所、相談しあえたり、地域の情報があつまる場所として、つどいの広場「ちゅくしんぼ」、家庭の事情による子供の一時的な預

移住者支援の村 西粟倉村

西粟倉村は岡山県の最北端、人口1千454人、高齢化率36.2%（平成31年4月現在）で、平成の大合併をせず自律できる地域をめざしてきました。

2008年に「百年の森林構想」を打ち出しました。戦後、復興用の木材が高く売れたので植林

されたと、外材に押されて木材価格は暴落し、山は二束三文となりました。

その価格を再定義し、手を入れ良い人工林にすれば、5年後には良質な木材が産出できます。

今手を打たなければこのサイクルは成り立たず、有害鳥獣の被害は増え、また自然災害で山崩れの原因ともなります。こうして短期経済視点ではない長期構想を打ち立て、それを行政と民間で分業しました。行政は相続等により細分化された民間林を所有者から預かり一括管理し、間伐や林道整備等を行います。民間は、間伐された木材を加工し商品として販売し、林業のサプライチェーンを構築しました。

まず木工関係の会社が



移住者が起業するため活用した閉校後の小学校前

でき、以後12年間で34万のローカルベンチャー事業が生まれました。人口規模から考えると驚くべきことでした。全国各地からチャレンジ精神をもった若者がこの小さな村にやってきて、森林に係のある業種だけではなく、農業・漁業、飲食、ファッション、宿泊、不動産、コンサル、教育、医療福祉など多様。村内出身者は4分の1だけで、他は村外からのイターンです。

100億円の企業を誘致するより、1億円の口